

美しいふれあい
(年取るといふこと日誌から)

CL教育研究会 遠間美保子
amhotm@gmail.com <http://docl.jp>



2016/01/9

昨今は小さな子供の数が減った代わりに、ペットの数が増えている。一台の車と小さな庭がある塀囲いのない一軒の玄関前に野良猫が5, 6匹たむろしている。住人が毎日餌をあげているようだ。猫たちは車の上や下、軒下で日向ぼっこをしている。家の中には入れていないらしい。しかし、ある日前を通ると一匹の犬が窓の内側で吠えている。昔は猫はこたつで〜♪のとおり、家の中で飼われ、犬は庭かけ回り〜♪で外で飼われたものだが、昨今はペットの居場所も変わってきたもんだ。

2016/01/10

待つ二題

・朝9時ごろ4, 5才の男の子が川に沿った道路工事横の道をすたすたと一人で歩いていく。「あれっ、ひとりで？」と後を歩いたら後ろを振り返った。私も振り返ると30m先に女の子をベビーカーに乗せて男の子のお父さんらしき男性が押しながらこちらに向かってくる。「おーい、待てよー」とお父さんが呼んでも男の子はすたすたと速度を緩めない。でもときどき振り返る。橋の所で左に折れ、お父さんたちは見えなくなる。工事現場を端から覗くと男の子も真似をして、工事の柵から覗いて橋の欄干に座ってみる。

「おーい、作戦会議しようー」とお父さんたちが足早に橋を渡ってくる。「川に鳥がいるよ」と声をかけると男の子は川を眺めて「あっ、カモメだ」と叫んだ時、さーっと大きく翼を広げて橋の下から別の鳥が飛んだ。男の子は「あっ」と気づいている。すぐに「あの鳥は大…」の後、肝心なときにすぐに言葉が出没しない。一瞬待って、「大鷲って鳥よ」と思い出す。男の子は飛び去る大鷲を目で追う。やっと追いついたお父さんが「どうもありがとうございます」と言って「鳥がいたんだよー」と言う男の子に「作戦会議だ」といっしょに歩くための相談を持ちかけた。物忘れも男の子の足止めに役立ったかな。

・別の道に入るとおじいさんがすたすたと元気に散歩をしている。そのあとから首輪をつけていないダックスフンドが道につきそうなお腹を抱えて、長さのない4本脚でちょこちょこと付いていく。が、おじいさんとの距離は2mほど離れている。おじいさんは横にちょっと寄り道をすると追いついた犬とちょうどぶつかる。「お前遅いなー」と犬に言ってまたすたすたと前を歩いていく。4本脚の犬でもコンパスの長さの違いが大きい2本脚には勝てない。「待ってー」とも言わず、おじいさんの後をやっとこさ歩き続けている。

2016/01/14

樹木がこんもりしている寺境内奥には紅葉や桜の紅葉はすでに散り、枝を刈りこまず自然な形をとどめて大きくなった満天星つつじだけが赤く紅葉している。体操をして階段を降りようとふと振り向くと木々の間から夕陽が差し、スポットライトをつつじに当てたように赤みが燃えるようで息をのむ美しさに太陽と自然の力に舌を巻いた。こうやってメモをしている間に夕陽の光は動いてしまった。一瞬の極美にありがとう。

2016/01/23

白髪をポニーテールにまとめた小さい丸顔の品の良い70代の女性が、グレーのロングコートとブーツの装いで駅の方に向かっていて、恰幅のいいやはり70代の男性が犬を散歩させている。女性は足を止めて「今日は冷たいですね」と声をかける。「冷たいですねー」と男性はにこやかに答える。「寒いときは犬のお散歩はたいへんねー」「ええー…」とにこにこする。女性はさらに「コーヒーでも飲みにいらしてください。お暇なんですよ」上品な女性の積極的な誘いのことばに私はへーと少し驚いた。男性はニコニコ笑いながら「ありがとうございます」と答えている。「私はほとんど家におりますから、いつでも」。お互い連れ合いをなくして一人住まいなのか。ご主人同氏が友人だったのか、二人の会話を耳にした私の想像はふくらむ。上手に入れた熱いコーヒーを趣味の良いカップでもてなす婦人とのにこやかに話を聞く男性とのお茶の時間を映画の一場面のように浮かべた。

2016/03/06

朝から雨ふり。歩いて十分ほどの歯医者に向かう踏切の手前で、おじいちゃんが孫の男の子を幼稚園に送るのか傘をさして歩いてくる。数歩うしろから青い傘をさしているのに下を向いて、長靴の男の子が大きな水たまりに一、二歩長靴を入れ始めた。おじいさんが振り向くと同時に、いたずらを見られた子供のようにおじいちゃんの顔を見て、とびきりの笑顔でニコッと笑った。現代はみずたまりで遊ぶ子供はほとんどいないが、楽しさはよくわかる。輝くような笑顔を見て私も笑った。歯医者への足取りが軽くなった。

2016/04/16


寂しい光景

・土曜日で休日なのか、若い親子三人が道路工事の脇を自転車でどこかにお出かけ。フェンスの中の工事現場ではトラクターが土を運びながらしている。お父さんの自転車の後ろに乗った幼稚園ぐらいの男の子が指をさして「見たい」と言ったのか、お父さんが「よし、見せてあげんね」とフェンスの前に止めて、男の子が良く見えるように抱き上げる。お母さんも自転車を止めるが、降りずにやおらコートのポケットからスマホを出して、工事の方は一瞥もせず、スマホを見つめる。工事の様子に興味がなくとも子供の興味がどんなことか興味を持たないのかな。親子三人いっしょに工事現場を見つめる様子を想像してなにか寂しくなった。

・駅の向かいに止まった反対車線の電車の窓にお母さんと男の子と窓の外を見るお姉ちゃんが座っているのが見える。女の子がこちらを向いたので、手を振る。電車がゆっくり走りはじめ見えなくなるまで手をふったが、女の子はじっと見たままで手を振りかえしてくれなかった。寂しいな。

2016/04/26

髪を後ろに一つに束ね黒縁眼鏡をかけたお母さんが、前に年中さん、後ろに年少さんらしき男の子を自転車で乗せて近くの園に向かっていて、お母さんが後ろの男の子に「靴を脱いだら、そのまま、下駄箱に入れるんだよ。そしたら、一つおわるから」背もたれにリラックスして座っている男の子は「ハイ」とけだるそうに返事をする。入園して間もなく、なすべきことが増えた子供にトラックレスのアドバイスをするお母さん。ご苦労さまと微笑んだ。(千葉県市川市CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)